資料２－１

第２期北海道スポーツ推進計画の点検・評価（最終報告）〈概 要 版〉

第２期計画の点検・評価	第３期計画	備　考
柱１スポーツで変わる北海道民 ■ **成人の週１回以上スポーツ実施率　６５％　→　Ｒ３：６１．９％**	**１スポーツ参画人口の拡大とライフステージに応じたスポーツのあるくらしの充実** ■ **成人の週１回以上スポーツ実施率増加　７０％**	■国の第３期計画と同じ
現状・課題と第３期計画への反映 スポーツを「する」、「みる」「ささえる」といった多様な関わり方も視野に、誰もが、日常的にスポーツに親しみ、楽しむことができる環境づくりを進めることが重要。人口減少の進展といった状況を踏まえ、**スポーツ参画人口の拡大**といった視点を取り入れ		
■ **子どもの体力水準をピークのＳ６０年頃まで引き上げ　→　水準に達せず**	■ **新体力テストの総合評価がC以上の小（中）学生増加　８０（８５）％以上** ■ **１週間の総運動時間が６０分未満の小（中）学生の割合　半減**	■国の第３期計画と同じ ■　〃
現状・課題と第３期計画への反映 子どもを取り巻く環境を注視しながら、幼少期からスポーツに親しむことの重要性の理解と同時に、将来にわたり、スポーツに継続して親しむことができる機会を確保していくことが重要。運動習慣に関する目標を追加		
■ **本道の全ての市町村に総合型地域スポーツクラブを設置　→　Ｒ４：９３市町村**	■ **本道の全ての市町村に総合型地域スポーツクラブを設置　１７９**	■道の第２期計画を継続
現状・課題と第３期計画への反映 地域スポーツの担い手として期待される総合型地域スポーツクラブの量的・質的な充実が今後も求められる。運動部活動の地域移行に対応するため場の拡充が重要		
柱２　スポーツで変える地域・経済・共生社会 ■ **地域におけるスポーツコミッション設置数　１７　→　Ｒ４：１９** ■ **スポーツ都市宣言市町村数　４７以上　→　Ｒ３：４７** ■ **障がい者スポーツ指導者数　１，１００人　→　Ｒ３：１，０１８人**	**２　北海道ならではの特色を生かしたスポーツによる地域活性化と共生社会の実現** ■ **地域におけるスポーツコミッション数増加　３４** ■ **スポーツに関する計画等を策定し取り組む市町村数増加　１７９** ■ **障がい者スポーツ指導者数増加　１，３００人** ■ **障がい者（成人）の週1回以上スポーツ実施率増加　４０％** ■ **障がい者スポーツを体験したことのある者の割合増加　２０％**	■道の第2期計画を拡充 ■　〃 ■　〃 ■国の第３期計画と同じ ■　〃
現状・課題と第３期計画への反映 ・ 本道の強みを生かしたスポーツ振興と観光・地域振興の好循環の実現が重要 ・ 障がい者がスポーツを行いやすい環境は十分でない。東京・北京パラリンピックを通じた障がい者スポーツへの関心の高まりを好機として各種施策を一層展開		
柱３「どさんこ選手」の国際競技力の向上 ■ **より多くの本道出身選手が五輪等の競技大会に出場**	**３　どさんこ選手の国際競技力の維持・向上の促進** ■ **夏季・冬季オリパラにおいて、過去最高水準の出場者数、メダル獲得者数、金メダル獲得数、メダル総獲得数を実現**	■国の第３期計画と同じ
現状・課題と第３期計画への反映 人口減少・少子化等により将来的な競技人口の減少等を踏まえ、競技人口のすそ野拡大と競技力のさらなる向上とその水準の維持が重要		
柱４　スポーツを通じた人づくり	**４　スポーツの安全・安心の確保とささえる環境づくり**	
現状・課題と第３期計画への反映 ・ スポーツをする者の心身の安全・安心を確保することが重要 ・ セカンドキャリアに関し、将来展望が見えない認識の広まりは、競技離れ等を引き起こすおそれがある。アスリートの能力・技術・経験を生かすことが重要		
柱５　東京２０２０オリパラの開催、札幌冬季オリパラによる北海道レガシーの創出	**５　オリンピック・パラリンピック競技大会のスポーツ・レガシーの継承・発展**	■ 国の第３期基本計画「スポーツ・レガシーの継承・発展」と同じく他の柱・施策を再掲
現状・課題と第３期計画への反映 東京・北京開催により高まった気運を一過性のものとせず、取組を継承・発展させていくことが重要		